

科目名 Subject	色彩研究 Study of Colors			教員名	栗本 佳典	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	4単位	
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60時間	
実践的教育	×					
主な学習効果	美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力			表現力、すなわち芸術における実践力		
	—			◎		
科目の概要	美容をはじめ、デザイン等さまざまな仕事で必要となる色彩の基礎の確認から応用までを学び研究します。 配色計画やイメージ表現、パーソナルカラーなどについて、カラーカードやポスターカラーを用いた実習を取り入れながら展開します。					
授業方法	対面授業					
授業の目標	色相、明度、彩度、トーンといった色彩の基礎を十分に理解した上で、カラーシステムや配色計画について詳しく研究し、色彩を自由に使いこなすことができるようになる。 また、様々なテーマからイメージを膨らませ色彩構成することによって、色彩計画の幅を広げ感性を豊かにしイメージ表現ができる。 美容にとって必要となるパーソナルカラーでは、その人の性格や年齢、好みなどをリサーチし、似合う色を見つける能力を実践的に身につけるとともに、他の人にアドバイスすることができるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	展覧会やコンサートなどのチラシをたくさん集め、毎週2時間程度それらの配色デザインを分析した配色資料集を作成し研究して下さい。					
教科書・教材	教科書	なし				
	教材	なし				
	使用設備・備品	なし				
	参考文献	なし				
評価方法	授業内容の理解度40％ 課題に取り組む姿勢40％ 課題作品の完成度20％					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。					
履修上の注意						
本科目履修と関連する資格	資格名	パーソナルカラーディプロマ（タハライメージスタジオ）				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	色彩について	色彩学をふり返り、自分の知識を確認することで、今後学ぶべきことを進めることができる。	
第 2 回	色彩について	色彩学をふり返り、自分の知識を確認することで、今後学ぶべきことを進めることができる。	
第 3 回	色名	古代から現代までのさまざまな色名を認識できる。	
第 4 回	色名	古代から現代までのさまざまな色名を認識できる。	
第 5 回	マンセル色相	世界共通のマンセルカラーシステムを確認し、色相表を作ることができる。	
第 6 回	マンセル色相	世界共通のマンセルカラーシステムを確認し、色相表を作ることができる。	
第 7 回	PCCS トーン分類	PCCS トーンの表示方法を確認し、配色カードを自由に使うことができる。	
第 8 回	PCCS トーン分類	PCCS トーンの表現方法を確認し、配色カードを自由に使うことができる。	
第 9 回	CCIC トーン分類と色名	CCIC のトーン色を作成し、新たな色名を作り出すことにより発想力を得ることができる。	
第 1 0 回	CCIC トーン分類と色名	CCIC のトーン色を作成し、新たな色名を作り出すことにより発想力を得ることができる。	
第 1 1 回	カラーイメージデータ	多くの人のカラーイメージを知り、色彩イメージの効果的な演出力を高めることができる。	
第 1 2 回	カラーイメージデータ	多くの人のカラーイメージを知り、色彩イメージの効果的な演出力を高めることができる。	
第 1 3 回	パーソナルカラー基礎編	パーソナルカラーのコンセプトやシステムを理解し進めることができる。	
第 1 4 回	パーソナルカラー基礎編	パーソナルカラーのコンセプトやシステムを理解し進めることができる。	
第 1 5 回	パーソナルカラー応用編	パーソナルカラーにおける分析法やイメージ表現を身につけ使うことができる。	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 6 回	パーソナルカラー応用編	パーソナルカラーにおける分析法やイメージ表現を身につけ使うことができる。	
第 1 7 回	パーソナルカラー実践編	より実践的なパーソナルカラーの力を身につけ応用することができる。	
第 1 8 回	パーソナルカラー実践編	より実践的なパーソナルカラーをの力を身につけ応用することができる。	
第 1 9 回	絵画の配色分析	絵画作品の配色を分析し、様々な色彩表現があることを認識し配色することができる。	
第 2 0 回	絵画の配色分析	絵画作品の配色を分析し、様々な色彩表現があることを認識し配色することができる。	
第 2 1 回	配色技法	デザインでも使用される、さまざまな配色技法を使えるようになる。	
第 2 2 回	配色技法	デザインでも使用される、さまざまな配色技法を使えるようになる。	
第 2 3 回	課題研究（リサーチ）	自分が決めたテーマについて調べるにより、これまで学んだことを応用することができる。	
第 2 4 回	課題研究（リサーチ）	自分が決めたテーマについて調べるにより、これまで学んだことを応用することができる。	
第 2 5 回	課題研究（作成）	これまで学んだことをブラッシュアップして作成することができる。	
第 2 6 回	課題研究（作成）	これまで学んだことをブラッシュアップして作成することができる。	
第 2 7 回	課題研究（プレゼン準備）	これまで学んだことをブラッシュアップして作成し、資料をまとめることができる。	
第 2 8 回	課題研究（プレゼン準備）	これまで学んだことをブラッシュアップして作成し、資料をまとめることができる。	
第 2 9 回	研究発表	研究を発表することにより、プレゼンテーション能力を高め他と比較することができる。	
第 3 0 回	研究発表	研究を発表することにより、プレゼンテーション能力を高め他と比較することができる。	